

# カスタニェー社の販売台帳を通して見る 18世紀カタルーニャ綿業

—— 捺染綿布、捺染亜麻布、商人ネットワーク (1) ——

奥野良知

ジュゼップ・M・デルガードは、1995年の「スペインの工業化の初期局面における国内市場 VS 植民地市場」“*Mercado interno versus mercado colonial en la primera industrialización española*”と題する論文（以下 Delgado 1995）で、「カスタニェー社の販売」と題する表を掲載しその表をもとに、カタルーニャ綿業の発展の原動力となったのは国内市場であり、植民地市場の重要性は極めて低かったと主張している<sup>1)</sup>。

だが、デルガードの表では、1780年から88年までのカスタニェー社の販売金額が合算され、しかも、デルガードがその表を作成するに際して用いた史料 *llibre de major de Josep Castañer 1780-1788* 『カスタニェー社の販売台帳 (1780-88年)』(以下『販売台帳 (1780-88年)』)には、「靴」、「更紗 (捺染綿布) のハンカチ」、「捺染亜麻布のハンカチ」の三つの商品が記載されているにもかかわらず、そのことには一切触れず、すべての品目の金額が合算され、カスタニェー社が販売した更紗 (捺染綿布) の表として掲載されている。

このように、Delgado (1995) の表は、多くの問題をはらんでいる。そこで、この表の元史料の『販売台帳 (1780-88年)』を精査した結果、いくつかの極めて興味深い事実が判明した。結論を先取りしてそれをここで述べれば、それは主に以下の3点に要約できる。

一つは、従来考えられてきたように、更紗 (捺染綿布) は主に国内市場、捺染亜麻布は主に植民地市場にそれぞれ販売されたとする単純な二分法とは異なり、少なくともカスタニェー社の場合、年によっては更紗 (捺染綿布) を上回る量の非常に多くの捺染亜麻布が、カスティーリヤを中心とする国内市場に販売されていたことである。捺染亜麻布は専ら植民地に輸出されていたと考えられてきただけに、これは、従来の通説を大きく覆す点といえる。

第二には、カディス Cádiz、カネット・ダ・マル Canet de Mar、バルセローナ Barcelona への捺染亜麻布の販売量が1784年と85年に激増していることから、この3ヶ所へ送付された捺染亜麻布に関しては、植民地市場に輸出されたと考えられることである。つまり、この3ヶ所を国内市場と見なしてはいけなく、より具体的いえば、カディスをアンダルシア地域市場の一部、カネット・ダ・マルとバルセローナをカタルーニャ地域市場の一部と見なしてはいけなくということである。

第三には、カスタニエー社の販売台帳からは、同社が、いかに多種多様なカタルーニャ商人ネットワークを利用していたのかがわかることである。18世紀のカタルーニャ商人の交易離散共同体（コマーシャル・ディアスポラ）については、クポンス Copons とカラフ Calaf が有名であるが、カスタニエー社の販売台帳からは、一つの企業が、クポンスやカラフはもちろん、ジルネーリヤ Gironella、トゥルタリヤー Tortellà、ビック Vic、カネット・ダ・マルなどの多種多様な村や町の商人を同時に利用していたことが分かる。このような重層的なカタルーニャ商人ネットワークの存在を抜きに、カタルーニャ綿業の工業化を語ることはできない。

そこで、本論文では、『販売台帳（1780-88年）』の分析から得られた上記3点について、その内容と意義を検討し、今後の課題を提示することを目的とする。まず、1章の「問題点の整理」で、カタルーニャ綿業にとっての二つの市場（国内市場と植民地市場）および二つの物産（更紗〔捺染綿布〕と捺染亜麻布）についての問題点の整理を行い、2章の「カスタニエー社の商品と市場」では、『カスタニエー社の販売台帳（1780-88年）』の分析を通して、カタルーニャ綿業にとっての二つの市場（国内市場と植民地市場）と二つの商品（更紗〔捺染綿布〕と捺染亜麻布）について再検討を行い、3章の「カスタニエー社とカタルーニャ商人ネットワーク」では、『販売台帳（1780-88年）』の分析を通して、カスタニエー社が利用していたカタルーニャ商人ネットワークを分析し、18世紀カタルーニャ綿業とカタルーニャ商人の交易離散共同体（コマーシャル・ディアスポラ）の関係について検討する。

## 1章 問題点の整理

カタルーニャは、他のヨーロッパ先進諸地域に匹敵する規模と内容の工

業化(=産業革命)を、やはり、他の多くのヨーロッパ先進諸地域と同様に、綿業を主導部門として達成したスペインで唯一の地域であった。それゆえ、カタルーニャの事例は、ヨーロッパの工業化が必ずしも国家単位で生じた訳ではないということを示している大変興味深い事例といえる<sup>2)</sup>。

カタルーニャの工業化で中心的役割を果たしたカタルーニャ綿業は18世紀初頭の1730年代にバルセローナにおいて更紗製造業として誕生し、18世紀を通して発展していった。だが、18世紀のカタルーニャ綿業の発展の経緯と要因の説明には、常にいくつかの困難がともなってきた。

その主な理由の一つは、18世紀カタルーニャ綿業には、国内市場と植民地市場という二つの市場が関係し、しかも、特にカタルーニャ綿業が大きく発展した1780~90年代には、バルセローナの更紗製造業は、更紗(捺染綿布)だけでなく、捺染亜麻布も生産していたということにある。

更紗とは、本来はインドで生産されていた文様染め綿布のことで、このインド産更紗が、17世紀のヨーロッパで大流行し、それを輸入代替する過程で生じたのが、ヨーロッパの綿業であり、工業化=産業革命であった。更紗は、カタルーニャ語とカスティーリャ語(スペイン語)ではインディアナス(カタルーニャ語 *indianes*、カスティーリャ語 *indianas*)と呼ばれた。

ところで、インド産更紗には「手描き染め綿布」と「捺染綿布」の二種類の更紗があったが、高度な熟練と文化的・地理的背景を持つインドの「手描き染め」の技法をヨーロッパ人が模倣することはできず、ヨーロッパにもたらされたのは、レヴァントを経由してアルメニア人を介して導入された「捺染」の技法だった。それゆえ、ヨーロッパで模造された更紗は「捺染綿布」と考えてよい<sup>3)</sup>。また、カタルーニャで生産されていた綿布は、レヴァント綿糸の一種であるマルタ綿糸を用いて(1780年代以降は植民地産綿花〔=アメリカ綿〕も利用)製造されていた純綿布だった<sup>4)</sup>。

他方、ここでいう捺染亜麻布とは、フランスやドイツから輸入した亜麻布を、バルセローナの更紗製造業が捺染したもので、輸入亜麻布には、特にシュレーゲン産のものが多かったと考えられる<sup>5)</sup>。捺染亜麻布は、カタルーニャ語ではピンタッツ *pintats*、カスティーリャ語ではピンタードス *pintados* と呼ばれた<sup>6)</sup>。

要するに、18世紀カタルーニャ綿業の発展にとって重要だったのは、国内市場だったのか、それとも植民地市場だったのか、という市場の問題

に、18世紀カタルーニャ産綿業の発展にとって重要だったのは、更紗だったのか、捺染亜麻布だったのか、という商品の問題が絡んでくるところに、18世紀カタルーニャ産綿業の発展の経緯と要因を説明することの難しさがある。

そしてまた、それがゆえに、18世紀カタルーニャ産綿業の市場と商品の問題に関しての先行研究は非常に錯綜しているので、ここでは、あくまで、論点の整理に資する範囲内で、先行研究を確認しておく。

最も伝統的な解釈は、1778年の「自由貿易」規則によってバルセロナに植民地との直接交易が認められたこととカタルーニャの工業化とのあいだに直接的な因果関係を認めるもので、この「自由貿易」規則以後、大量のカタルーニャ産更紗が植民地市場に輸出されるようになったことで、カタルーニャ産綿業の工業化が生じたとする。

このような植民地市場とカタルーニャの工業化を単線的に結び付ける考え方には、カタルーニャと植民地市場との関係を、18世紀カタルーニャの経済発展の文脈そのもののなかに位置づけるという視点が欠如しているなど、様々な問題点が指摘されていたが、加えて、この伝統的解釈が内包していた大きな問題点は、バルセロナから輸出されていた捺染織物のなかには、大量の捺染亜麻布が含まれていたにもかかわらず、そのことを十分に認識していなかったことにある。

例えば、伝統的な解釈の代表的な論者であるガルシア＝バケーロは、1974年の論文で、1782-97年にかけて、かつて植民地貿易の独占港だったカディス港から植民地へ輸出された「国産品」は45.83%だったのに対し、バルセロナ港から植民地へ輸出された「国産品」の割合は93%にも達し、その中で、捺染織物は26.8%を占めたとし、そのことをもって、植民地市場とカタルーニャの工業化に直接的な因果関係があったと主張する。ただし、ガルシア＝バケーロは、植民地へ輸出された捺染織物の半数以上は、カタルーニャで生産された更紗ではなく、外国から輸入され、バルセロナで捺染されただけの捺染亜麻布だったことを認めておきながら、捺染織物をすべて「国産品」として扱っている<sup>7)</sup>。

この点は、デルガードから強い批判を浴びることになった。デルガードの主張は、多少の意見のブレや矛盾はあるもののおおよそ次のようなものである。1778年の「自由貿易」規則は、外国産品であっても国内で加工されたものを「国産品」とみなし、3%の低率関税を適用した（本来の国

製品は無関税)。つまり、1778年の「自由貿易」規則以後、バルセローナで捺染された輸入亜麻布にも、「国産品」として低率関税が適用された。それゆえ、デルガードによると1778年の「自由貿易」規則には、カタルーニャ綿業を保護育成しようとする意図はまったくなかったし、それどころか、この「自由貿易」規則はカタルーニャ綿業を仕上げ（捺染）工程に特化させ、カタルーニャ綿業の発展を阻害したのだった。

そして、ガルシア＝バケーロが、1991年の論文で、バルセローナ港から植民地に輸出されたカタルーニャ産更紗は、総生産量の約35%だったとするのに対し、デルガードはそれが約7%に過ぎなかったとし、植民地市場はカタルーニャ綿業の発展には何ら重要な役割を果たしておらず、カタルーニャ綿業は、国内市場を原動力として発展したとする<sup>8)</sup>。

このように、デルガードは、1778年の「自由貿易」規則と、その結果生じたバルセローナの更紗製造業による輸入亜麻布の捺染とその植民地への輸出を、カタルーニャ綿業にとって否定的なものとして捉えているのに対し、デルガードの考え方をいわば倒立させて、輸入亜麻布の捺染と植民地への輸出をカタルーニャ綿業にとって全面的に肯定的なものとして評価したのが、ナダルである。

ナダルによれば、1778年の「自由貿易」規則によって、輸入品でもスペインで加工されたものは免税（正確には3%の低率課税）とされた結果、大量の外国産亜麻布がバルセローナで捺染されて、植民地へ輸出されるようになった。その結果、バルセローナの更紗製造業は、1780-90年代に亜麻布の捺染に特化するようになり、バルセローナは、ヨーロッパ最大の捺染織物産地となった。そして、このかつてない規模の大量の亜麻布の捺染と植民地への輸出から得られた利益は、当時まだ非常に脆弱な規模でしかなかった厳密な意味でのカタルーニャ綿業の機械化に貢献したとする<sup>9)</sup>。

他方、ナダルのこの見解に対して、サンチェスは、1992年の論文で、商品取引所の複数の仲買商人の帳簿に基づいて、1780-90年代のバルセローナの更紗捺染業は、ナダルのいうように亜麻布の捺染に完全に特化してしまっていたのではなく、更紗捺染業はカタルーニャ産綿布の捺染と輸入亜麻布の捺染の双方を行っていて、更紗と捺染亜麻布の生産の割合は、6対4から7対3程度であったとしている。ただし、サンチェスは、2000年の論文にバルセローナ商務委員会 Junta de Comerç/Junta de Comercio が1789年に主要37社の更紗製造企業に対して行った生産状況についての調

査を基に作成した表を掲載しているが、そこでは、更紗と捺染亜麻布の生産量の割合は、4対6と逆になっている。いずれにせよ、サンチェスは、更紗が主に国内市場で販売されていたのに対し、捺染亜麻布は専ら植民地へ輸出されたとしたうえで、更紗が購買力の劣る国内市場に立脚しているなか、植民地市場への捺染亜麻布の輸出は、カタルーニャ綿業の工業化に大きく貢献したとする<sup>10)</sup>。

このように、植民地市場の役割と亜麻布の捺染事業をどう評価するか、という点で見解は大きく分かれているが、更紗が主に国内市場で販売され、捺染亜麻布が主に植民地市場で販売されていたとする点では、大きな見解の相違はない。

## 2章 カスタニェー社の商品と市場

表1は、デルガードの作成した「ジュゼップ・カスタニェー社の販売」の表で、デルガードがこの表を作成するに際して用いた史料は、カタルーニャ自治州立古文書館 Arxiu Nacional de Catalunya に所蔵されている *llibre de major de Josep Castañer 1780–1788* 『カスタニェー社の販売台帳(1780–88年)』である<sup>11)</sup>。

この表の最大の問題点は、既述のように『販売台帳(1780–88年)』には、「靴」、「更紗のハンカチ」、「捺染亜麻布のハンカチ」の三つの商品が記載されているにもかかわらず、そのことには一切触れず、すべての品目の金額を合算したうえで、カスタニェー社が販売した「更紗」の表としてこの表を記載し、そこから、更紗にとって、つまりカタルーニャ綿業にとって、カスティーリヤ市場を中心とする国内市場が圧倒的に重要であったとの結論を導きだしていることである。また、この表では、1780年から88年までの数字を合算しているために、年ごとで見ることによるのみ知ることのできるそれぞれの販売地の特徴も見えなくなっていることも大きな難点といえる。

そこで、筆者はカタルーニャ自治州立古文書館にて『販売台帳(1780–88年)』を閲覧し、更紗と捺染亜麻布を区分したうえで、年次別に集計して表にしたのが表2である。単位は金額ではなく、反 *peça*、すなわち量である。ちなみに、靴については、商品の性格が全く異なるので、今回の表には記載していない。表2に記載してある地域のうち、上位の4つの地域

の内訳を示したのが、表3から表6である。また、1780年と1788年の数字は年間を通しての数字ではないので、表2から表6のいずれの表にも、両年の数字は記載していない。というのも、『販売台帳(1780-88年)』に記されている1780年の情報は、『販売台帳1772-80』の1780年の情報からの続きであり、1788年の情報は、『販売台帳1788-92』の1788年の情報に引き継がれる途中の情報だからである<sup>12)</sup>。

まず、デルガードの表1と筆者が作成した表2を見て気づくことの一つは、販売先地域の順位が違うということである。表1では1位がカタルーニャ、2位がカステイーリャなのに対して、表2では、両者の順位が入れ替わっている。また、表1では4位がガリシア、5位がバレンシアなのに対して、表2では、これらの順位も入れ替わっている。その要因は、おそらくは、表2では靴を除外してあることや、金額と反という単位の違いも関係していると思われる。

そして、表2を見てまず驚くことは、捺染亜麻布の多さである。全体で見ても1781-86年にかけて捺染亜麻布の方が更紗よりも多いが、とりわけ驚くべきことに、最大の市場であり、なおかつ国内市場とみなしてまず問題ないと思われるカステイーリャでも、捺染亜麻布は、1781-85年にかけて更紗より多いということである。

このことは、捺染亜麻布は主に植民地市場に販売されていたとする従来の説とは大きく異なる結果である。特に、トムソンは、国内での捺染亜麻布の販売は禁止されていたとしているが、その見解は全くの誤りであるといわなければならない<sup>13)</sup>。また、デルガードは、捺染亜麻布への免税(低率関税)は、国内市場で販売される場合は適用されなかったとしているが<sup>14)</sup>、そのことについて明確な史料的裏付けを示している訳ではなく、カスタンニェー社の販売結果を見ると、デルガードのこの主張には、大いに議論の余地があるといわざるを得ない。

他方、サンチェスが、2000年の論文に掲載した表では、捺染亜麻布の約70%が植民地に販売され、残り約30%が国内市場で販売されたとなっている。サンチェスは、この論文の文中では、捺染亜麻布が主に植民地に販売されたことにしか触れていないが、その表は、結果的には、捺染亜麻布の約30%が国内市場で販売されたことを認める結果となっていて、先に記したデルガードやトムソンの見解と比較すれば、まだしもカスタンニェー社の事例に近い<sup>15)</sup>。

とはいえ、サンチェスの表にもかなり議論の余地がある。というのも、サンチェスはその表を作成するに際して用いた史料は、既述のように1789年にバルセロナ商務委員会が更紗製造企業に対し行った各社の生産状況についての調査なのだが、そこでは、必ずしもすべての企業が、どの商品がどの市場にどのような割合で販売されたのかを詳細に回答している訳ではない。また、1789年だけの数字であることも考慮しないといけない<sup>16)</sup>。少なくとも、表2～6では、カスタンニュー社の場合、30%をはるかに超える捺染亜麻布を国内市場で販売しているように見える。ただし、カスタンニュー社がどれくらいの割合の捺染亜麻布を国内市場で販売し、植民地へ輸出していたのかということについては、興味深く、なおかつ注意を要する点がある。

まず、表2から表8、特に表7と表8を見ると、アンダルシアのカディス、カタルーニャのバルセロナおよびバルセロナの北東40kmにあるカタルーニャの港町カネット・ダ・マルでは、1784年と85年に捺染亜麻布が激増しており、この3つの販売地だけが、その他の販売地とは大きく異なる動きを示していることが分かる。特に、カディスとカネット・ダ・マルでの両年の激増ぶりは、その前後の年と比べて際立っている。その結果として、アンダルシア全体とカタルーニャ全体でも、ひいては、販売数全体でも両年の捺染亜麻布の数字は、非常に多くなっていることが分かる。

この両年は、1783年にアメリカ独立戦争が終結したことで、戦争のあいだ滞っていた植民地貿易が再開され、植民地への輸出が激増したことで知られている年である。いわば、戦後植民地貿易特需であった。また、1786年は、植民地市場が飽和状態に達し、特需が終わりを告げた年であった。

このことから、カディス、バルセロナ、カネット・ダ・マルの3ヶ所で、1784年と85年に捺染亜麻布の販売数が激増しているのは、これら3ヶ所で販売された捺染亜麻布が植民地へ輸出されたためであると考えられる。

まず、かつて植民地貿易の独占港だったアンダルシアのカディスであるが、デルガードは、Delgado (1995) で、カディスへの販売は植民地への輸出を意味するとはいえず、比較的の高い購買力を持つカディスおよびその後背地で消費されたとしている<sup>17)</sup>。だが、すでに述べたように、1784



年と85年の両年に同地へ販売された捺染亜麻布の数字が、その前後の年と比較して爆発的に増えていることから、カディスに向けて販売された捺染亜麻布は、植民地に向けて販売されたと考えて間違いない。実際、カディスへの捺染亜麻布の販売は、1782-83年平均の128反から、1784-85年平均の4014反へと、実に約31倍も増加していて、1786-87年になると平均値354反にまで激減している。また、表7と表8に示されている商品別の市場占有率では、カディスに販売された捺染亜麻布は、1782-83年平均の1.65%から84-85年平均の28.95%へと、約17.5倍にまで増加した後、86-87年には平均5.7%にまで減少している。

また、カディスに販売された更紗も、捺染亜麻布には遠く及ばないものの、この両年に増加していることから、やはり植民地へ輸出された可能性が高いと考えられる。実際、カディスへ販売された更紗は、1782-83年平均の59.5反から、1784-85年平均の398.5反の約6.7倍にまで増加した後、86-87年には、平均値15反にまで減少している。また、その市場占有率も、1782-83年平均の2.2%から84-85年平均の9.6%へと、約4.4倍に増加した後、86-87年には平均0.25%にまで減少している。

次はカタルーニャのカネット・ダ・マルだが、デルガードは、カタルーニャを一括して単に国内市場とみなしている。だが、表7や表8のカネット・ダ・マルを見ると、先に見たカディスと非常によく似た動きをしていること、つまり、1784-85年の数字が、その前後の年と比較して、極端に増加していることが分かる。実際、同地への捺染亜麻布の販売は、1782-83年の平均の134.5反から、1784-85年平均の1804反へと、約13.4倍も増加していて、1786-87年には平均350反にまで減少している。また、表8の市場占有率を見てみると、同地への捺染亜麻布の販売は、1782-83年平均の1.7%から84-85年の平均約13%へと、約7.7倍増加した後、86-87年には平均6.2%にまで減少している。

加えて、3章でも触れるが、カスタニエー社のカディスへの販売は、ほとんどが「カディスに駐留しているカネット・ダ・マルの (... de Canet resident en Cadis)」商人を通して行われている。これらのことから、カネット・ダ・マルに販売された商品、つまり、『販売台帳』に単に「カネット・ダ・マルの (... de Canet)」とだけ記載されている商人に販売された捺染亜麻布や更紗も、カディスに搬送され植民地へ輸出されたと考えて間違いないと思われる。

他方、バルセローナの場合、例えば表7を見るとわかるように、1782年にバルセローナに販売された捺染亜麻布が222反で、それが83年にはすでに719反にまで増加しており、84年には1533反と最大値を示した後、85年にはすでに784反にまで減少し、さらに86年に251反にまでさらに減少している。つまり、カディスやカネット・ダ・マルとはその増加の仕方が少し異なるものの、バルセローナの場合も、そこに販売された捺染亜麻布については、その多くが植民地に輸出されたと考えて間違いないであろう。

以上のことから、カスタンニュー社がカディスおよびカネット・ダ・マルに販売した捺染亜麻布と更紗は、そのほとんどが、植民地へ輸出されたと考えられ、同社がバルセローナに販売した捺染亜麻布も、相当量が植民地に輸出されたと考えられる。

いずれにせよ、デルガードは、『販売台帳』に記載されている商品のすべてを更紗として扱い、1780-88年にカスタンニュー社から植民地へ輸出されたのは、表1にある「アメリカ(プエノス・アイレス)」の0.34%のみと解釈しているようであるが、それは大きな間違いであるといわざるを得ない。実際、1784年のカディスとカネット・ダ・マルに販売された捺染亜麻布の市場占有率を合わせると37.8%に、85年は46.2%にまでなり、それにバルセローナの数字を単純に加えてみると、84年は48.7%、85年は51.9%になる(表7)。また、1784年にカディスとカネット・ダ・マルに販売された更紗の市場占有率を合わせると12.1%、85年は17.8%になる(表7)。

ここで、捺染織物の植民地への輸出に関して確認しておくべきことは、1778年の「自由貿易」規則以後も、バルセローナで生産された捺染織物の植民地への輸出に際しては、カディスは、バルセローナ以上に非常に大きな重要性を持ち続けたし、カネット・ダ・マルをカディスの一部として考えれば、その重要性はさらに増加するということである。1章で触れたガルシア＝バケーロとデルガードの論争は、専らバルセローナ港の関税記録をもとに、バルセローナから輸出された更紗と捺染亜麻布の数字をめぐって行われたものだったが、カディスは、「自由貿易」規則以後も、カタルーニャ産品を植民地へ輸出する港として、重要な地位を占め続けたと考えて間違いない。

さて、議論を捺染亜麻布の国内での販売に戻す。仮に、カディスとカネット・ダ・マルだけでなく、バルセローナで販売された分もすべて植民地に

輸出されたと仮定すると、これら「3ヶ所の値を合計した数値」を「植民地へ輸出された数」の目安、「全体の数字からこれらの3ヶ所の値を引いた数値」を「国内での販売数」の目安と考えることができる(表7)。これを見て分かることは、まず、1787年を除いて、捺染亜麻布の国内での販売数は、更紗の国内での販売数はもちろん、更紗の生産数よりも多いということである。そして、捺染亜麻布が大量に輸出された1784-85年以外の年では、国内で販売された捺染亜麻布の割合は8割を超えているし、1784-85年の国内での販売数も、その前後の年に匹敵するか、それを上回る量となっている。

もちろん、カスタンニエー社の事例を、どこまでバルセローナの更紗製造業の全体を代表するものと見なすことができるのかという問題はある。また、カスタンニエー社は、更紗と捺染亜麻布のほとんどを、ハンカチ(スカーフ)として製造していたという同社の特徴も考慮しないといけなかもしれない<sup>18)</sup>。とはいえ、カスタンニエー社の事例が、当時のバルセローナの更紗製造業を多かれ少なかれ映し出していることも間違いない。いずれにせよ、従来考えられていたよりもはるかに多くの量の捺染亜麻布が国内で販売されていたことは確かだと考えられる。

詳細は別稿に譲るが、実際、カスタンニエー社と同様に当時の代表的な更紗製造企業の一つだったフランセスク・リーバス Francesc Ribas 社は、ムゼットの研究によって捺染綿布のみを専ら製造し国内に販売していた企業だったと考えられていたが、1789年にバルセローナ商務委員会が更紗製造企業に行った各社の生産状況についての調査では、同社は、更紗を上回る量の捺染亜麻布を生産し、しかもそれを主に国内に販売していると回答している<sup>19)</sup>。

では、捺染亜麻布が植民地のみならず、国内でも好んで消費された理由は何なのであろうか。綿織物と亜麻織物の製造と消費に関しての近親性や連続性と相違点については、今ここで深く立ち入る紙幅はない。ただ、ここで一つだけ指摘しておくべきことは、カタルーニャで生産されていた(正確には捺染されていた)捺染亜麻布は、カタルーニャで生産されていた更紗よりも、はるかに幅広い品質と価格帯を有していたことである。

表9の「カスタンニエー社の商品と価格」を見れば、そのことは一目瞭然であろう。捺染亜麻布は、更紗と比べて、3.75ソウから33.75ソウまで極めて広い価格帯に分布し、非常に多く品揃えを持っていた。まさに、あら

ゆる階層の人々に見合った品揃を有した物産だったといえる。捺染亜麻布は、このような極めて幅広い価格帯、品質、品揃を持った亜麻布に、本来は綿布に固有の仕上げ工程である捺染が施されていた商品だったことが、植民地だけでなく国内市場でも広く消費された最も重要な理由の一つだったと考えられる。

品揃えの豊富さについて補足すると、カタルーニャで捺染された亜麻布の代表格は *platillas* だが、カスタニェー社の場合、*platillas* のハンカチ（スカーフ）の価格は10ソウから17.5ソウとかなり幅広い。これは、色の種類や色の数、絵柄などによって価格が異なったためで、*platillas* だけでも捺染・染色の違いで実に多様な種類があった。これに対し、安価な *Llibrets*、*Renisos*、*Casserrillos* は、青か、青と白の比較的単純な配色だった。また、上質の亜麻布は、価格や質の点で更紗をはるかに上回った。

とはいえ、この章で最後に指摘しておくべきことは、表7のカスタニェー社の販売量の「全体」においても、「国内での販売数」の目安である「全体の数字からこれらの3ヶ所の値を引いた数値」においても、捺染亜麻布は1784年をピークに減少していくのに対して、更紗は傾向としては確実に増加していくことである。しかも、1787年になると、更紗は「全体」においても「国内での販売数」においても、ついには捺染亜麻布を上回っている。

サンチェスは、1797年から始まる一連の戦争によって、捺染亜麻布の植民地への輸出が急速に減少していくことで、カタルーニャ綿業が購買力の劣る国内市場に立脚する綿布のみに向き合う覚悟を決め、紡績工程の機械化と工場制工業化に本腰を入れだすことになるとしている<sup>20)</sup>。しかし、カスタニェー社の場合、今まで見てきたように、従来はその大半が植民地に販売されたと考えられてきた捺染亜麻布を大量に国内市場に販売していた。加えて、更紗の生産が傾向としては確実に増加していて、1787年には捺染亜麻布のそれを追い抜いている。このことから、カスタニェー社の場合、1784-85年に捺染亜麻布の植民地への輸出が激増したとはいえ、国内市場は、更紗はもちろん、捺染亜麻布にとっても非常に重要な市場だったことが分かる。そして、少なくともカスタニェー社では、専ら国内市場に立脚し、そこでの販売が着実に増加していく更紗こそが将来性のある商品であるということが、すでに1780年代後半には明確に意識されていたのではないかと推測される。

カスタニエー社の販売台帳を通して見る18世紀カタルーニャ綿業

表1 デルガードの作成した  
「ジュゼップ・カスタニエー社の販売」

	リウラ	%
カタルーニャ	505,414	37.20
バルセローナを除くカタルーニャ	409,915	30.17
バルセローナ	95,499	7.03
カスティーリャ	453,256	33.42
マドリードを除くカスティーリャ	276,389	20.34
マドリード	176,867	13.02
アンダルシーア	236,054	17.38
カディスを除くアンダルシーア	124,277	9.15
カディス	111,777	8.23
ガリシア	66,673	4.01
バレンシア	49,665	3.66
ムルシア	19,645	1.45
アラゴン	9,735	0.72
バスク	5,620	0.41
アメリカ (ブエノス・アイレス)	4,650	0.34
エストレマドゥーラ	2,447	0.18
アストゥリアス	1,941	0.14
リオッハ	836	0.06
マルタ商人	2,572	0.19

典拠：Josep M. Delgado Ribas, “Mercado interno versus mercado colonial en la primera industrialización española”, *Revista de Historia Económica*, Año XIII, núm. 1, 1995, pp.11-31. Cuadro 1と Cuadro 2より作成。

表2 カスタニエー社の地域別販売表

(単位:反)

	全体 Total		カスティーリャ Castilla		カタルーニャ Catalunya	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	1043	4894	603	2813	233	783
1782	2339	7312	937	3260	499	1538
1783	2752	7824	945	2823	651	2341
1784	4210	13958	1394	2903	1367	4157
1785	4176	13707	1605	3431	1299	4778
1786	5729	6978	2489	2318	1581	1567
1787	5467	4449	2641	1615	688	945
	アンダルシーア Andalucía		バレンシア València		ガリシア Galicia (Galiza)	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	60	616	53	154	84	417
1782	331	1022	354	333	119	599
1783	324	850	459	565	156	707
1784	608	5118	444	507	177	443
1785	521	4273	497	379	30	257
1786	506	1270	587	180	147	275
1787	824	1091	718	270	221	90
	アラゴン Aragón		ムルシア Murcia		バスク País Vasco (Euskadi)	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	0	0	0	5	0	30
1782	0	117	50	151	0	0
1783	99	248	108	125	0	30
1784	9	247	89	91	0	0
1785	56	159	87	153	0	227
1786	68	640	178	89	0	190
1787	69	179	224	103	0	42
	アメリカ (ブエノス・アイレス) América (Buenos Aires)		リオッハ Rioja		エストレマドゥーラ Extremadura	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	0	0	0	0	0	27
1782	0	0	15	46	11	169
1783	0	0	0	36	13	87
1784	89	367	15	79	0	27
1785	0	0	21	50	0	0
1786	0	0	20	0	0	0
1787	0	0	20	67	0	27

カスタニェー社の販売台帳を通して見る18世紀カタルーニャ綿業

	アストゥリアス Asturias		マルタ商人 Comerciants maltesos		不明 Sense precisar	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	0	1	0	0	10	48
1782	5	0	0	0	18	77
1783	0	0	0	0	0	12
1784	2	4	16	14	0	0
1785	0	0	60	0	0	0
1786	38	30	0	39	115	380
1787	0	16	62	4	0	0

典拠：Arxiu Nacional de Catalunya (A.N.C.) Fons Castañer, 02. 04. 25. 02, Llibre de major de Josep Castañer 1780-1788. より作成。

表3 カスティーリャの内訳（上位17ヶ所）

	カスティーリャ全体 Castilla Total		パレンシア Palencia		王宮 Sitios Reales	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	603	2813	29	412	268	858
1782	937	3260	133	817	450	88
1783	945	2823	252	743	463	805
1784	1394	2903	370	1165	590	369
1785	1605	3431	402	912	438	374
1786	2489	2318	822	721	583	229
1787	2641	1615	712	401	759	360
	レオン León		バリアドリー Valladolid		メディーナ・デル・カンポ Medina del Campo	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	71	384	68	266	35	61
1782	75	361	66	256	0	0
1783	20	158	24	193	14	28
1784	25	219	36	307	49	140
1785	106	258	71	48	79	313
1786	158	208	120	183	140	150
1787	104	6	116	9	106	115
	タラベラ Talavera		トルデシーリャス Tordecillas		アレバロ Arévalo	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	16	34	35	71	12	146
1782	37	35	37	92	0	100
1783	22	80	27	136	0	117
1784	66	64	44	162	45	63
1785	63	112	71	238	86	125
1786	176	81	39	8	101	30
1787	125	45	63	20	96	45

愛知県立大学外国語学部紀要第44号(地域研究・国際学編)

	サラマンカ Salamanca		マドリード (王宮を除く) Madrid		アランダ・デル・ドゥエロ Aranda del Duero	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	0	57	18	73	9	61
1782	0	44	36	112	13	55
1783	2	107	28	134	0	33
1784	0	0	0	107	46	75
1785	32	132	35	154	48	155
1786	21	73	68	123	88	138
1787	44	267	62	0	50	80
	グアダラハラ Guadalajara		シウダ・ロドリゴ Ciudad Rodrigo		ソリア Soria	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	9	81	3	9	0	0
1782	0	26	30	106	16	59
1783	10	69	15	38	0	0
1784	24	34	10	14	17	55
1785	39	59	4	56	36	81
1786	22	112	7	28	42	77
1787	0	57	51	58	0	0
	バルデーラス Valderas		アルバセーテ Alvacete		セゴビア Segovia	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	0	0	0	0	2	28
1782	0	0	0	0	6	24
1783	25	90	0	0	0	0
1784	24	26	0	0	6	10
1785	10	92	26	74	5	13
1786	3	27	43	15	0	0
1787	0	0	114	15	24	50

典拠：表2に同じ。



カスタニェー社の販売台帳を通して見る18世紀カタルーニャ綿業

表4 カタルーニャの内訳（上位8ヶ所）

	カタルーニャ全体 Catalunya Total		バルセローナ Barcelona		ビック Vic	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	233	783	0	66	106	271
1782	499	1538	4	222	256	784
1783	651	2341	105	719	249	629
1784	1367	4157	428	1533	390	947
1785	1299	4778	294	784	318	646
1786	1581	1567	701	251	323	280
1787	688	945	287	89	179	287
	カネット・ダ・マル Canet de Mar		ジルネーリャ Gironella		トゥルタリャー Tortallà	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	24	2	54	28	6	54
1782	0	78	23	66	4	66
1783	0	191	122	197	27	203
1784	175	1043	164	79	61	107
1785	276	2565	159	166	116	252
1786	90	380	155	247	111	42
1787	14	320	130	148	0	0
	ウロット Olot		クボンス Copons		マタロー Mataró	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	15	131	23	47	0	0
1782	1	80	82	37	0	0
1783	54	154	47	46	0	0
1784	39	133	22	59	36	144
1785	35	124	40	59	22	36
1786	0	21	77	21	22	100
1787	0	52	58	7	0	0

典拠：表2と同じ。

表5 アンダルシーアの内訳(上位8ヶ所)

	アンダルシーア全体 Andalucia Total		カディス Cádiz		グラナダ Granada	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	60	616	0	0	30	384
1782	331	1022	34	103	186	409
1783	324	850	85	153	160	385
1784	608	5118	337	4252	183	488
1785	521	4273	460	3776	41	291
1786	506	1270	30	553	109	525
1787	824	1091	0	156	263	621
	アンドゥハル Andújar		マラガ Málaga		ヘレス Jerez de la Frontera	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	17	34	0	94	2	47
1782	5	47	67	147	8	107
1783	0	53	0	26	66	114
1784	1	44	0	117	34	61
1785	0	33	0	0	0	19
1786	216	20	47	75	46	83
1787	360	70	87	147	65	55
	ハエン Jaén		セビーリャ Sevilla		ラ・カロリーナ La Carolina de Sierra Morena	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	11	57	0	0	0	0
1782	2	121	0	0	0	0
1783	0	28	0	6	0	0
1784	43	85	0	0	10	27
1785	0	49	20	20	0	40
1786	0	0	58	14	0	0
1787	0	0	49	3	0	39

典拠：表2に同じ。

カスタンニエー社の販売台帳を通して見る18世紀カタルーニャ綿業

表6 バレンシアの内訳（上位8ヶ所）

	バレンシア（全体） València Total		アルジエラ Alzira		モルベドラ（サグン） Morvedra (Sagunt)	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	53	154	6	15	4	51
1782	354	333	68	12	15	118
1783	459	565	130	124	15	64
1784	444	507	88	81	13	176
1785	497	379	128	81	12	124
1786	587	180	107	76	15	36
1787	718	270	195	73	30	123
	アラカン Alacant		カステリョー・デ・ラ・プラーナ Castelló de la Plana		シャティバ St. Feliu de Xàtiva	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	0	0	0	47	3	17
1782	22	89	5	84	80	3
1783	37	75	19	215	50	0
1784	64	106	13	42	92	30
1785	61	27	42	59	59	40
1786	82	15	18	20	138	8
1787	62	26	0	0	44	0
	バレンシア València		オリオーラ Oriola		レケーナ Requena	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	0	0	0	24	0	0
1782	21	14	1	13	0	0
1783	70	8	0	79	0	0
1784	12	41	17	31	25	0
1785	66	0	20	48	0	0
1786	84	25	0	0	0	0
1787	116	48	0	0	0	0

典拠：表2に同じ。

表7 カデイス、カネット、バルセローナ

	全体 Total		全体から3ヶ 所の値を引い た数値		3ヶ所の値を 合計した数値		カデイス Cádiz		カネット・ダ マル Canet de Mar		バルセローナ Barcelona	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
1781	1043	4894	1019	4826	24	68	0	0	24	2	0	66
1782	2339	7312	2301	6909	38	403	34	103	0	78	4	222
1783	2752	7824	2562	6761	190	1063	85	153	0	191	105	719
1784	4210	13958	3270	7130	940	6828	337	4252	175	1043	428	1533
1785	4176	13707	3146	6582	1030	7125	460	3776	276	2565	294	784
1786	5729	6978	4908	5794	821	1184	30	553	90	380	701	251
1787	5467	4449	5166	3884	301	565	0	156	14	320	287	89
	全体 Total		全体から3ヶ 所の値を引い た数値		3ヶ所の値を 合計した数値		カデイス Cádiz		カネット・ダ マル Canet de Mar		バルセローナ Barcelona	
	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻	綿	亜麻
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1781	100.0	100.0	97.7	98.7	2.3	1.3	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	1.3
1782	100.0	100.0	98.5	94.6	1.5	5.4	1.4	1.4	0.0	1.0	0.1	3.0
1783	100.0	100.0	93.2	86.6	6.8	13.4	3.0	1.9	0.0	2.4	3.8	9.1
1784	100.0	100.0	77.8	51.3	22.2	48.7	8.0	30.4	4.1	7.4	10.1	10.9
1785	100.0	100.0	75.2	48.1	24.8	51.9	11.2	27.5	6.6	18.7	7.0	5.7
1786	100.0	100.0	85.8	83.2	14.2	16.8	0.5	7.9	1.5	5.4	12.2	3.5
1787	100.0	100.0	94.7	87.4	5.3	12.6	0.0	3.5	0.2	7.1	5.1	2.0

典拠：表2に同じ。

表8 主要市場の占有率

	更紗									
	全体	Cas.	Cat.	(Bar.)	(Can.)	And.	(Cad.)	Val.	Gal.	その他
	反	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1781	1043	57.8	22.3	0.0	2.3	5.7	0.0	5.0	8.0	1.2
1782	2339	40.0	21.3	0.1	0.0	14.1	1.4	15.1	5.0	4.5
1783	2752	34.3	23.6	3.8	0.0	11.7	3.0	16.6	5.6	8.2
1784	4210	33.1	32.4	10.1	4.1	14.4	8.0	10.5	4.2	5.4
1785	4176	38.4	31.1	7.0	6.6	12.4	11.2	11.9	0.7	5.5
1786	5729	43.4	27.5	12.2	1.5	8.8	0.5	10.2	2.5	7.6
1787	5467	48.3	12.5	5.1	0.2	15.0	0.0	13.1	4.0	7.1
	捺染亜麻布									
	全体	Cas.	Cat.	(Bar.)	(Can.)	And.	(Cad.)	Val.	Gal.	その他
	反	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1781	4894	57.4	15.9	1.3	0.0	12.5	0.0	3.1	8.5	2.6
1782	7312	44.5	21.0	3.0	1.0	13.9	1.4	4.5	8.1	8.0
1783	7824	36.0	29.9	9.1	2.4	10.8	1.9	7.2	9.0	7.1
1784	13958	20.7	29.7	10.9	7.4	36.6	30.4	3.6	3.1	6.3
1785	13707	25.0	34.8	5.7	18.7	31.1	27.5	2.7	1.8	4.6
1786	6978	33.2	22.4	3.5	5.4	18.2	7.9	2.5	3.9	19.8
1787	4449	36.3	21.2	2.0	7.1	24.5	3.5	6.6	2.0	9.4

注：Cas. = カスティーリヤ、Cat. = カタルーニヤ、Bar. = バルセローナ、Can. = カネット・ダ・マル、And. = アンダルシア、Cad. = カデイス、Val. = バレンシア、Gal. = ガリシア。

典拠：表2に同じ。

表9 カスタンニェー社の商品と価格

商品名	繊維	価格 (sou)
Llibrets de 2 pams	亜麻	3.75～4.375
Llibrets de 3 pams	亜麻	5.625～6.25
Renisos (Ranisos) de 3 pams 1/2	亜麻	9.375～10
Casserrillos de 3 pams 3/4	亜麻	9.375～10
Platillas	亜麻	10～17.5
Breñañas	亜麻	12.5
Cotó de 4 pams	綿	12.5～13.75
Entrefins de 4 pams 1/4	亜麻	16.875～18.75
Cotó de 4 pams 1/2	綿	17.5～18.75
Fins de 4 pams 1/2	亜麻	22.5～33.75
Lavals	亜麻	30～33.75

典拠：表2と同じ。

## 注

- 1) Josep M. Delgado Ribas, “Mercado interno *versus* mercado colonial en la primera industrialización española”, *Revista de Historia Económica*, Año XIII, núm. 1, 1995, pp. 11-31.
- 2) この点については、例えば次を参照。奥野良知「18世紀カタルーニャの地域工業化——産地形成と業種転換を中心に——」『社会経済史学』第67巻第3号、2001年、47-50頁。奥野良知「スペインの地域的多様性——カタルーニャの工業化の歴史的要因を中心に——」加藤里美／中垣勝臣編『全球化社会の深化——異文化をめぐる化合・還元・触媒』成文堂、2011年、25-28頁。
- 3) 深沢克己『商人と更紗——近世フランス＝レヴァント貿易史研究』東京大学出版会、2007年、157-202頁。
- 4) 奥野良知「毛から綿へ——カタルーニャ農村部への綿業の拡大に関する一考察1779-1806年——」『スペイン史研究』第13号、1999年。奥野「18世紀カタルーニャの地域工業化」。
- 5) 1780年代にシュレージェン産亜麻織物のスペインへ輸出は急増し、1784年には、シュレージェン産亜麻織物の1/2から2/3がスペインへ輸出されたと言われる。馬場哲『ドイツ農村工業史——プロト工業化・地域・世界市場』東京大学出版会、1993年、102頁。
- 6) ただし、pintats/pintados と indianes/indianas は常に厳密に区別されていた訳ではなく、更紗を含む意味で pintats/pintados が使われることもあった。ちな

- みに、深沢は、ポルトガル語では更紗は *pintados* と呼ばれ、これは *chintz* が「斑点」を意味するヒンディー＝マラータ語の *tchint*, *tchit* に由来するのと同様、「斑点」を意味する *pinta* に由来するとしているが、この語源の説明がカタルーニャ語とスペイン語の *pintats/pintados* にどの程度当てはまるのかは分からない。深沢『商人と更紗』163頁。
- 7) Antonio García-Baquero, “Comercio colonial y producción industrial en Cataluña a fines del siglo XVIII”, dins J. Nadal y G. Tortella (ed.) *Agricultura, comercio colonial y crecimiento económico en la España contemporánea*, Barcelona, 1974, pp. 268–294.
  - 8) デルガードの論文は多数あるが、なかでも Josep M. Delgado Ribas, “Política ilustrada, industria española y mercado americano, 1720–1820”, *Pedralbes*, 3 (1983), pp. 260–273; “La industria algodonera catalana (1776–1796) y el mercado americano. *Una reconsideración*”, *Manuscrits*, 7, 1988, pp. 103–116; “Mercado interno *versus* mercado colonial”. ガルシア＝バケーロの1991年の論文は、Antonio García-Baquero, “La industria algodonera catalana y el libre comercio. Otra reconsideración”, *Manuscrits*, núm. 9, pp. 37–38.
  - 9) Jordi Nadal, “Sobre l’entitat de la indianeria barcelonina del set-cents. Nota suggerida per la lectura d’un article d’Alexandre Sánchez”, *Recerques*, núm. 24, pp. 180–186.
  - 10) Alex Sánchez, “La indianeria catalane: ¿mito o realidad?”, *Revista de Historia Industrial*, núm. 1, 1992, pp. 213–232; “Crisis económica y respuesta empresarial. Los inicios del sistema fabril en la industria algodonera catalana, 1797–1839”, *Revista de Historia Económica*, Año XVIII, núm. 3, 2000, p. 492. なお、捺染亜麻布の植民地への輸出がカタルーニャ綿業の工業化をどのように促進したのかという議論についての詳細は、別稿で論じる。
  - 11) Arxiu Nacional de Catalunya (A.N.C.) Fons Castañer, 02.04.25.02, Llibre de major de Josep Castañer 1780–1788.
  - 12) ANC, Fons Castañer, 02.04.25.01, Llibre de major de Josep Castañer 1772–1780; 02.04.25.03, Llibre de major de Josep Castañer 1788–1791.
  - 13) J.K.J. Thomson, *A Distinctive Industrialization. Cotton in Barcelona 1728–1832*, Cambridge, 1992, p. 197.
  - 14) Delgado, “La industria algodonera catalana”, p. 111.
  - 15) Sánchez, “Crisis económica y respuesta empresarial”. p. 492.
  - 16) Biblioteca de Catalunya (B.C.), Fons Gònima, Estados de lo manufacturado por las fábricas de pintados de Barcelona que anualmente se pasan a la Junta de Comercio, 1789.
  - 17) Delgado, “Mercado interno *versus* mercado colonial”, p. 23.

- 18) ただし、ハンカチ（スカーフ）は、カタルーニャで生産されていた更紗や捺染亜麻布の主要な用途の一つだった。
- 19) Assumpta Muset, “La conquesta del mercat peninsular durant la segona meitat del segle XVIII: l'exemple de la casa Fç Ribas I Cia (1766–1783)”, *Segon Congrés d'Història Moderna de Catalunya, Pedralbes*, núm. 8, vol. I; B. C., Fons Gònima, Estados de lo manufacturado por las fábricas de pintados de Barcelona que anualmente se pasan a la Junta de Comercio, 1789.
- 20) Sánchez, “Crisis económica y respuesta empresarial”, pp. 494–495.